

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

平成22年3月18日

【評価実施概要】

事業所番号	0177600202
法人名	(有) 幸慈愛福祉事業振興会
事業所名	グループホーム はまなす石狩
所在地	〒061-3216 石狩市花川北6条1丁目68番地 (電 話) 0133-76-2201

評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成22年3月4日	評価確定日	平成22年3月18日

【情報提供票より】 (22年2月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 1 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	21 人 常勤17人, 非常勤 4人, 常勤換算16.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造陸屋根 造り
	2階建ての 1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円
その他の経費(月額)	光熱水費17,000円 暖房費10,000円(11月～4月)4,000円(5月・10月)
敷 金	有 (円) 無
保証金の有無(入居一時金含む)	有 (円) 有りの場合償却の有無 有 / 無
食材料費	朝食 300 円 昼食 400 円
	夕食 500 円 おやつ 200 円
	または1日当たり 1,400 円

(4) 利用者の概要 (2月10日現在)

利用者人数	18 名	男性 7 名	女性 11 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名
要介護3	8 名	要介護4	4 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.3 歳	最低 55 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ピエタ会石狩病院・竹花歯科クリニック
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームはまなす石狩は、社員寮を改築した事業所で開設9年目を向かえた。開設者は、「その人らしい尊厳のある暮らし」の提供を目的に運営し、生活リハビリや残存機能に応じた役割分担、立位訓練や歩行訓練などを取り入れ、利用者の笑顔が耐えない活気ある生活の支援に取り組んでいる。事業所内の階段には電動昇降椅子が設置されており、機能低下しても2階での生活が出来るよう配慮されている。また、開設者・施設長・職員が一丸となって重度化やターミナルの支援にも取り組んでおり、医療連携体制の充実を図り、家族からの信頼や安心に繋がっている。毎年恒例の、家族同伴1泊旅行など、外出行事も積極的に支援しており、熱意ある介護に取り組んでいる事業所である。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題として唯一あげられていた「災害対策」については、既に避難訓練時の地域住民との協力体制に取り組み改善されているが、今後も継続し、更なる連携体制づくりに期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、職員各自がしっかり自分の介護に向き合うことを念頭に全職員で取り組んでいる。職員各自がシートの各項目に記入をして、会議で意見交換をし、ユニット毎に纏めあげている。外部評価での改善課題や自己評価での課題にも取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、町内会長・民生委員・市介護保険課職員・包括支援センター職員・入居者家族・事業所職員を構成員として2ヶ月毎に開催をしている。事業所の状況や行事を報告し、認知症についての勉強会を開き、意見交換の場として活用し、サービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族からの意見や要望は、家族訪問時や運営推進会議で、積極的に伺っている。また、事業所行事に家族に参加をしてもらい、率直な意見を伺い、事業所運営に反映している。重要事項説明書に、内部・外部の苦情相談窓口を明記し、家族に説明している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、新年会・町内会祭り・福祉祭り・市の夏祭りに参加をし、除雪ボランティア・清掃活動に協力をしている。また、事業所前の駐車場で、地域の方と一緒に焼肉パーティ等の事業所イベントを実施したり、日常的に交流を重ね助け支え合っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で、地域密着型サービスの意義を考え、利用者が馴染みの所で、尊厳を大切に、利用者のありのままの生活を支えるサービスを念頭に職員全員で事業所理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所理念は、会議室、廊下、居間などに掲示し、常に意識できるようにしている。カンファレンスでは、理念を基にした介護の実践についての話し合いに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、新年会・町内会祭り・福祉祭り・市の夏祭りに参加をし、除雪ボランティア・清掃活動に協力をしている。また、事業所前の駐車場で、地域の方と一緒に焼肉パーティ等の事業所イベントを実施したり、日常的に交流を重ね、助け支え合っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員各自がしっかりと自分の介護に向き合うことを念頭に全職員で取り組んでいる。職員各自がシートの各項目に記入をして、会議で意見交換をし、ユニット毎に纏めあげている。外部評価での改善課題や自己評価での課題にも取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、町内会長・民生委員・市職員・包括支援センター職員・入居者家族・事業所職員を構成員として2ヶ月毎に開催をしている。事業所の状況や行事を報告し、認知症についての勉強会を開き、意見交換の場として活用しサービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は、市のグループホーム連絡協議会設立に尽力し、21年度は4回の連絡会を開催している。会議には、市職員や事業所管理者が参加をして、情報交換や課題解決、職員の研修会などを実施し、市内同業者全体のサービス向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問は多く、家賃等の利用料金は毎月、家族が事業所で支払っている。利用者の暮らしぶりや健康状態、病院受診結果などは、家族訪問時や電話で詳細に報告をしている。また、各利用者毎の事業所での写真をアルバムにして、各自の居室に置いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や要望は、家族訪問時や運営推進会議で、積極的に伺っている。また、事業所行事に家族も参加をしてもらい、率直な意見を伺い、事業所運営に反映している。重要事項説明書に、内部・外部の苦情相談窓口を明記し、家族に説明をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は無く、離職もほとんど無い状況なので、職員の定着率が高く、利用者とは馴染みの関係が築かれている。運営者は、入居者の状況に応じて職員の勤務調整を実施し、職員会議で意見交換や問題解決を図り、働きやすい職場環境作りに努めている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修では、職員の段階に応じて実践者研修やケアプランについての研修を受講し、内部研修で実践者研修での課題協力や報告をしている。また、認知症ケアについてのスタッフ研修会は全員受講をしている。深夜のケア・重度化のケア・咀嚼について等のテーマで勉強会を実施し介護の充実を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市グループホーム連絡協議会の世話役として活動をし、新人研修や勉強会の企画や職員の交流でサービスの向上を図っている。今後、センター方式の勉強会を予定している。又、他事業所の勉強会や音楽祭等の事業所イベントに参加をしたり、ターミナルケアについての相談を受けたり等、交流を重ねている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前には本人・家族と訪問面談を行い、事業所見学を勧め、要望や不安を受け止めるようにしている。ケアハウス・病院・ディサービス利用者からの入居照会が多く、家族や関係者と連携を図りながら、入居者に不安を感じさせないような声かけや家族の面会等で工夫をし馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者は、「はまなす合唱団」を結成し、食事前に昔の馴染みの歌を練習している。和気あいあいとした雰囲気、冗談を言い合い、利用者の会話を引き出しながら、喜怒哀楽を共にしている。職員は、利用者から昔の生活の知恵や経験・趣味・心配事・故郷の話等を伺い学んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、本人家族・関係者からこれまでの生活歴や暮らしぶりを伺い、入居後の参考にしてしている。利用者の心身の状態や日常生活動作、認知状況等を情報収集し、本人家族の意向を充分伺い、個別ケアの実践に向け職員間で検討・共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、理念に掲げている「その人らしい」個別ケアを念頭において作成するように心がけている。利用者の担当職員が中心となって、本人や家族の意向を基に、センター方式で蓄積したアセスメントを参考にして、毎月のカンファレンスで検討を重ね、ケアマネジャーが介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の担当職員が中心となり、利用者に関する課題や変化等のあらゆる気づきを利用者毎に書き留め職員間で共有しており、毎月のカンファレンスで検討をしている。見直し期間や状態変化時には、検討内容を参考に新たな計画に反映している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域のダンスサークルへの個別参加送迎、利用者かかりつけ医への通院介助、利用者入院時の毎日のお見舞い、お墓参り、自宅訪問など、本人・家族の要望に柔軟に対応し、個別支援に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関との連携は緊密で、重度化や終末期利用者への毎日の往診協力を受けている。利用者のかかりつけ医への受診往診体制も支援しており、主治医との情報交換を密にして連携を図っている。看護師職員も配置し、利用者の日常的な健康管理を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応指針書を基に、入居時の説明に加え、状況変化に応じた段階的な話し合いと合意を得て対応をしている。本人・家族の意向によりターミナル支援も実施している。医療機関との連携体制を整備し、本人・家族・主治医との話し合いにより方針を統一して、全職員で共有を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、常に、利用者一人ひとりのプライバシーや誇りを尊重した言葉かけや対応を心がけている。また、記録類の管理や情報提供に関する個人情報の扱いについては、契約書で合意を交わし、個人情報保護法に対応した取り組みが行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者の「その人らしさ」を大切に支援することを心がけ、利用者個人の生活リズムやペース、その日の体調を考慮し、「何をどのようにしたいか」を把握し、そのように支援できるように取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、会話を楽しみながら、時間をかけてゆっくりと、利用者と職員と一緒に食べている。食事の下準備・後片付け・食器拭き・食器収納などの一連の作業は、生活リハビリや役割分担として利用者の日課になっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、週2～4回程度、朝から夕方までの時間帯で支援をしている。重度や終末期の利用者にも医師の許可がある場合は、利用者の安全面や体力面を考慮しながら、入浴出来るよう工夫をして支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者には、生活リハビリや能力に応じた役割分担をお願いしており、手すり拭き・洗濯物たたみ・おしぼり・玄関掃除・食事関係の作業などの場面作りをしている。将棋・編み物・ちぎり絵・パズル等の支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・買い物・海辺のドライブ・浜辺の散策や遊歩道・バラ園・果物狩り・お花見・紅葉狩りなど積極的に外出支援をしている。毎年恒例の家族同伴温泉一泊旅行は、利用者家族の楽しみの一つとなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の玄関ドアは防犯上施錠をしているが、日中の玄関や居室は施錠せずに、見守りを強化し、鍵のない自由な暮らしを大切に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導・協力を得て、昼夜を想定し、町内会や民生委員の方の参加協力をいただきながら、避難訓練を実施している。反省点や今後の課題を整理し、次回の訓練に活かすよう取り組んでいる。	○	事業所は、毎年、定期的な避難訓練を実施しているが、年間を通した様々な想定での避難訓練の繰り返しや、災害種別に応じた避難誘導方法の訓練が大切であるとの思いがあり、今後も地域住民との連携を図りながら、実践的な訓練の継続を期待したい。
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、調理師資格の職員が中心となり、医師の指示や利用者の好みを取り入れて献立し、栄養バランスや食事形態に配慮したプロの味を提供している。職員は、水分摂取の大切さを充分認識しており、利用者の必要量を確保出来るよう工夫をして支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員寮を改造して造られているので広くはないが、それが返って、家具や壁を伝って歩けたり、床の段差がリハビリになったりしている。廊下の壁には、利用者みんなで作ったちぎり絵や動物の写真を飾り、癒しや季節感を感じさせてくれる配慮がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者が使い慣れた馴染みの家具や生活用品・装飾類を持ち込み、家族と相談をして好みの生活環境をつくり、安心して過ごせるような工夫をしている。		

※  は、重点項目。